

大証・東証デリバティブ市場統合後の取引制度について

2014年3月24日(月)より、
大阪証券取引所と東京証券取引所のデリバティブ市場が統合され、
これまで両取引所で取引されていた商品につきましては
大阪取引所(デリバティブ市場統合日より、
大阪証券取引所は「大阪取引所」へ社名を変更します。)で取引されることとなります。

1 取扱商品

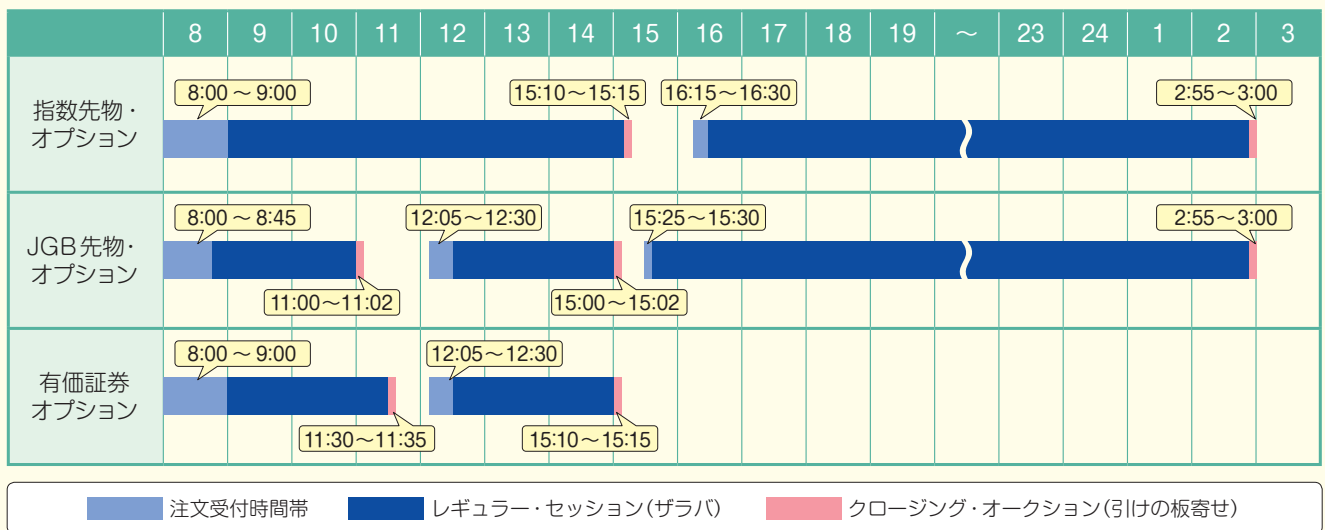
デリバティブ市場統合後に取引可能な商品は以下のとおりとなります。

先物取引				オプション取引	
株価指数	日経225先物(ラージ/ミニ)	その他 指数	日経平均VI先物	株価指数	日経225オプション
	TOPIX先物(ラージ/ミニ)		日経平均・配当指数先物		TOPIXオプション
	TOPIX Core30先物		TOPIX配当指数先物	国債 (JGB)	長期国債先物オプション
	東証REIT指数先物		TOPIX Core30 配当指数先物		個別株
	RNプライム指数先物		国債 (JGB)	国債先物 (中期/長期/超長期(4/7予定))	
東証銀行業株価指数先物	三二長期国債先物				
海外指数	NYダウ先物				
	CNX Nifty先物				

※大証FX(OSE-FX)については現行どおり、制度変更はありません。

2 取引スケジュール

取引スケジュールは、商品区分ごとに以下のとおりとなります。



※指数先物のうち、日経平均VI先物取引は、現行どおり夜間取引を実施しません。

ご注意

- これまで、東証で取引されていた指数先物・オプションについても前場・後場の区分を廃止し、日中取引は一場制となります。また、夜間取引(ナイト・セッション)については、16時30分から翌日3時まで行います。

3 マッチング・ルール

(1) 板寄せ方式による約定値段の決定方法

板寄せの際のマッチング・ルールは以下のとおりとなります。

板寄せの優先条件

- 条件1** 売り又は買いのいずれか一方に指値注文がある値段のうち、売注文と買注文が対当する値段。
- 条件2** 条件1の値段が複数ある場合は、執行数量が最大となる値段。
- 条件3** 条件2の値段が複数ある場合は、売注文の累計数量と買注文の累計数量の差(以下「不均衡数量」という。)が最小となる値段。
- 条件4** 条件3の値段が複数ある場合は、次のいずれかの値段。
 - ① すべての不均衡数量が売越しとなるときは、このうち最も安い値段。
 - ② すべての不均衡数量が買越しとなるときは、このうち最も高い値段。
 - ③ ①及び②以外のときは、条件5の値段。
- 条件5** 次のいずれかの値段(対当する値段より優先する値段の指値が未約定となる値段を除く。)。
 - ① 不均衡数量が最小となる値段のうち最も高い値段が板中心値段より低い場合は、当該最も高い値段。
 - ② 不均衡数量が最小となる値段のうち最も安い値段と最も高い値段の間に板中心値段がある場合は、板中心値段。
 - ③ 不均衡数量が最小となる値段のうち最も安い値段が板中心値段よりも高い場合は、当該最も安い値段。

※ 板中心値段とは、a) 当取引日の直前の約定値段、b) aがない場合は、当取引日の呼値の制限値幅の基準値段です。

ご注意

- 成行注文は注文受付時間帯も発注可能ですが、全数量約定するとは限りません。 ○ 板寄せにより約定しなかった成行注文は、失効します。
- 板寄せにより取引が成立しない場合でも、ザラバ方式による取引に移行します。
- 呼値の制限値幅の範囲内であれば、基準値段等から大きく乖離した価格で即時に板寄せすることがあります。

(2) 引けの板寄せ

引けの板寄せでは、即時約定可能値幅制度の基準となる値段から終値成立値幅*を超える場合、取引が成立しません。

※) 終値成立値幅は、即時約定可能値幅と同じ値幅になります。

4 即時約定可能値幅(DCB 値幅)制度

誤発注等による価格急変防止の観点から、直前の約定値など基準となる値段から即時約定可能値幅を超えて上昇または下落する注文が発注された場合に、即時約定可能値幅の範囲内で対当できる数量を約定させたくうえで、取引を一時中断します。

先物取引				
	商品	基準となる値段	DCB 値幅	中断時間
株価指数	日経225先物(ラージ/ミニ)	直近約定値段	上下0.8%	30秒間
	TOPIX先物(ラージ/ミニ)			
	TOPIX Core30先物			
	東証REIT指数先物			
	東証 銀行業株価指数先物			
	RN プライム指数先物			
海外指数	NYダウ先物	BBO 仲値*	上下1%	
	CNX Nifty先物			
その他指数	日経平均VI先物	BBO 仲値*	上下0.5pt	
	日経平均・配当指数先物		上下10円	
	TOPIX 配当指数先物		上下1pt	
	TOPIX Core30 配当指数先物			
国債(JGB)	国債先物(中期/長期)	直近約定値段	上下10銭	
	ミニ長期国債先物	BBO 仲値*	上下30銭	
	国債先物(超長期(4/7 予定))			

オプション取引

商品	基準となる値段	DCB 値幅	中断時間
株価指数	日経225オプション	上下10tick	15秒間
	TOPIXオプション		
国債(JGB)	長期国債先物オプション	上下10銭	30秒間
個別株	有価証券オプション	下表参照	

※) BBO 仲値は、直近の約定値段、又は、直近の最優先買呼値と最優先売呼値の仲値をいいます。

有価証券オプションのDCB 値幅

対象有価証券の制限値幅の基準値段		DCB 値幅	対象有価証券の制限値幅の基準値段		DCB 値幅
	500円未満	上下10円	30,000円以上	50,000円未満	上下1,000円
500円以上	1,000円未満	上下20円	50,000円以上	100,000円未満	上下2,000円
1,000円以上	3,000円未満	上下50円	100,000円以上	300,000円未満	上下5,000円
3,000円以上	5,000円未満	上下100円	300,000円以上	500,000円未満	上下10,000円
5,000円以上	10,000円未満	上下200円	500,000円以上		上下20,000円
10,000円以上	30,000円未満	上下500円			

ご注意

○ DCB解除時の板寄せにおける対当値段がDCB中の基準となる値段から一定値幅の範囲外である場合には、連続して取引が一時中断されます(連続DCB)。

5 制限値幅制度

先物・オプション取引の制限値幅については、以下のとおりとします。

先物取引

商品	制限値幅	
株価指数	日経225先物(ラージ/ミニ)	
	TOPIX先物(ラージ/ミニ)	
	TOPIX Core30先物	通常値幅：上下 制限値幅算定基準値の8% 第一次拡大値幅：上下 制限値幅算定基準値の12% 最大値幅：上下 制限値幅算定基準値の16%
	東証 REIT 指数先物	
	RNプライム指数先物	
	東証銀行業株価指数先物	
海外指数	NYダウ先物	通常値幅：上下 制限値幅算定基準値の7% 第一次拡大値幅：上下 制限値幅算定基準値の13% 最大値幅：上下 制限値幅算定基準値の20%
	CNX Nifty先物	通常値幅：上下 制限値幅算定基準値の10% 第一次拡大値幅：上下 制限値幅算定基準値の15% 最大値幅：上下 制限値幅算定基準値の20%
その他指数	日経平均VI先物	通常値幅：上下 10pt / 上下 5pt ずつ拡大
	日経平均・配当指数先物	通常値幅：上下 50円 / 上下 25円 ずつ拡大
	TOPIX 配当指数先物	通常値幅：上下 5pt / 上下 2.5pt ずつ拡大
	TOPIX Core30 配当指数先物	
国債(JGB)	国債先物(中期/長期)	通常値幅：上下 2.00円 / 最大値幅：上下 3.00円
	ミニ長期国債先物	
	国債先物(超長期)	通常値幅：上下 6.00円 / 最大値幅：上下 9.00円

オプション取引

商品	制限値幅	
株価指数	日経225オプション	通常値幅：上下 制限値幅算定基準値の11% 第一次拡大値幅：上下 制限値幅算定基準値の14% 最大値幅：上下 制限値幅算定基準値の17%
	TOPIXオプション	
国債(JGB)	長期国債先物オプション	通常値幅：上下 2.10円 / 最大値幅：上下 3.00円
個別株	有価証券オプション	対象有価証券における制限値幅の基準値段の上下25%

制限値幅算定基準値

- ・株価指数先物・オプション取引については、3・6・9・12の四半期ごとに見直しを行います。
- ・海外指数先物取引(NYダウ先物、CNX Nifty先物)については、1・4・7・10の四半期ごとに見直しを行います。

6 サークット・ブレーカー制度

サーキット・ブレーカー制度につきましては以下のとおりとします。

発動条件	先物取引の中心限月取引において、次の①かつ②に該当した場合 ① 制限値幅の上限(下限)値段に買(売)呼値が提示された(当該値段で取引が成立した場合を含む)場合 ② 制限値幅の上限(下限)値段から一定値幅*を超える値段で1分以上取引が成立しない場合 ※指数先物…通常時の制限値幅の10%、JGB先物…DCB値幅
中断対象	① 同一資産を対象とする先物取引(ミニ含む)の全限月取引 ② 同一資産を対象とするオプション取引の全限月取引・全銘柄 ③ ①及び②の銘柄に関連するストラテジー取引 ④ ①及び②の銘柄に係るJ-NET取引
適用除外の条件	① 14:50～15:10まで(指数先物) ② 14:40～15:00まで(国債先物) ③ 2:35～2:55まで(指数先物・国債先物) ④ 制限値幅を最大値幅まで拡大した後に再度発動基準に該当した場合等 なお、①～③の時間帯にサーキット・ブレーカーの発動基準に該当した場合、サーキット・ブレーカーは発動しませんので、直近の制限値幅のまま引けの板寄せを行います。
中断開始	サーキット・ブレーカー発動条件該当直後の大証がその都度定める時
中断時間	10分間
再開方法	中断中に制限値幅を拡大のうえ、板寄せ方式により取引を再開します。
基準値段	取引日単位で洗替えます。

ご注意

- 取引再開時の板寄せでは、制限値幅の範囲内であれば即時に取引が成立します。
- 値幅の限度の拡大は取引の一時中断中に行います。値幅の限度が拡大される前に、拡大前の制限値幅を超える注文は受け付けられません。

7 注文機能

注文機能や注文の名称については各証券会社で異なりますので、詳細についてはお取引先の証券会社でご確認ください。

(1) 注文種類

注文種類	概要
① 指値注文	価格の限度を指定して発注し、指定した価格又はそれより有利な価格で約定する注文。
② 成行注文	価格の限度を指定せずに発注し、最良の売呼値(買呼値)と順次対当する注文。
③ 最良指値注文	価格の限度を指定せずに発注し、最良の売呼値(買呼値)と対当する指値注文。
④ ストップ注文	発注時に指定した板登録条件を満たしたときに、発注時に指定していた条件で板登録される注文。

ご注意

- 成行注文は、注文受付時間帯も発注可能ですが、板寄せ時に全数量約定するとは限りません。
- 最良指値注文は、ザラバ中のみ発注可能です。 ○ ストップ注文はストラテジー取引に発注できません。

(2) 注文条件

次の呼値の条件を必ず付す必要があります。

注文条件	概要	
約定数量条件	Fill and Store (FAS)	一部約定後に未約定の残数量が残る場合には、残数量を有効とする条件。
	Fill and Kill (FAK)	一部約定後に未約定の残数量が残る場合には、残数量を失効させる条件。
	Fill or Kill (FOK)	全数量が直ちに約定しない場合には、全数量を失効させる条件。

Fill and Store (FAS) の場合には以下の有効期間条件を付す必要があります。

有効期限条件	概要
Good for Day (GFD)	当日の日中立会終了まで有効(夜間立会で受け付けた注文は当日の夜間立会終了まで有効)とする条件。
Good till Date (GTD)	指定した期間が満了する日の日中立会終了まで有効とする条件。
Good till Cancel (GTC)	注文が取り消されるまで有効とする条件。

免責事項：本資料に関する著作権は、株式会社日本取引所グループにあります。本資料の一部又は全部を無断で転用、複製することはできません。本資料は、当社子会社の先物・オプション取引に関する制度の概要説明のみを目的として提供されるもので、先物・オプション取引の勧誘を目的としたものではありません。先物・オプション取引においては、株式相場、為替相場の変動等によって損失が生じるおそれがあり、差し入れた証拠金の全部若しくは一部を失う、または、差し入れた証拠金を超える損失を被ることがあります。また、相場変動等により証拠金額に不足が生じた場合には、追加の差し入れが必要となります。お取引に際しては、あらかじめお取引先の金融商品取引業者等より交付される契約締結前交付書面等の書面の内容を十分にお読みいただき、商品の性質、取引の仕組み、リスクの存在、手数料等を十分に御理解いただいたうえで、御自身の判断と責任で取引を行っていただきますよう、お願い申し上げます。また、本資料に含まれる記述などの使用に関し、当社及び当社子会社は一切責任を負いません。当社及び当社子会社は本資料に記載の事項に関し、将来予告なしに変更することがあります。

●お問い合わせ



株式会社大阪証券取引所

<代表> TEL ▶ 06-4706-0800 / E-mail ▶ webmaster@jpx.co.jp

※ご質問等はメールでお問い合わせください。